



文部科学大臣杯 第60回全日本ボウリング選手権

3月18~21日 / 稲沢グランドボウル



男子 福満亮選手2年ぶりの奪還 女子 向谷美咲選手万感の有終V

第60回全日本ボウリング選手権大会が、36団体(男子320名、女子171名)が参加して3月18日から4日間、愛知・稲沢グランドボウルで行われた。フィナーレを飾るマスターズ戦は、男女とも大接戦だったが、男子は福満亮選手(長崎)が2年ぶり2度目、女子は向谷美咲選手(千葉)が5年ぶり(4大会ぶり)5度目の選手権者に輝いた。また団体総合は、男子は長崎県、女子は群馬県がともに初優勝で文部科学大臣杯を獲得した。(主催：(公財)全日本ボウリング協会)

◀2年ぶりに王者奪還の福満選手(左)と、5年ぶりに女王に返り咲いた向谷選手

◀5度目の優勝の向谷選手は「この数年は、もう1回優勝したいと思ってやってきたので、最高です」



▲「9フレはちょっとかんでしまった。ワンチャンスあると思っていたので、悔しいです」と準優勝の岩元選手



▲「最終Gで1位と63ピン差は、まだまだチャンスがあると思ったけど…去年と同じ3位でした」と石田選手



▲「コロナ解禁で行けるようになったら、国際大会でメダルを取りたい」と福満選手



男子 欠乏のハイスコアバトルに

近年はどちらかというとシビアなレーンコンディションでの戦いが多かったが、今大会は男子は8個のパーフェクトが記録されるなど、ハイスコアの戦いとなった。

最初の種目、**2人チーム戦**(6G×2)は、5G目に増井選手のパーフェクトを含む557を打った茨城 A1(斎藤・増井)が、トータル2839で優勝した。

3人チーム戦(6G×3)は、前半を2位で折り返した長崎 A1(福満・山本・山下)が、後

半も安定した内容で、トータル4140で優勝した。

6人チーム戦(6G×6)は、神奈川 A(畑・塚越・斎藤・佐々木・鶴見・川田・川田)と三重 A(高木・加藤・梅田・丸本・山本・伊東)が前半を4165の同ピンで1位に並んでいたが、後半は神奈川 Aが引き離し、8202で優勝した。

マスターズ戦には、チーム戦3種目の個人成績による個人総合1位の加藤勇紀選手(三重)をはじめ、上位26名が進出、ゼロスタートの12Gトータルで選手権者の座が争われた。

9Gを終わっても30ピン以内に4人がひしめく接戦となっていた。その混戦から、前々大

会の覇者・福満選手が10G目269、11G目257、最終 Gも257を打って抜け出し、トータル2898で2度目の制覇を達成した。

「自分も点数が出ているのに、周りをもっと打っていて、なかなか上と差を詰められなかったけど、我慢、我慢と言いきかせて少しずつ上がっていった。初優勝のときよりもめちゃくちゃ緊張して震えたけど、その分喜びも大きい」と福満選手。

最終 Gを前に福満選手に33ピン差につけていた斎藤翼選手(茨城)は、201と伸ばせず2809で2位、最終 Gに249を打った久富木広選手(鹿児島)が2778で3位に入った。

団体総合は、福満選手のマスターズ戦優勝のほか、3人チーム戦も制した長崎県が、三重県に2点差をつけて初優勝を飾った。

女子

向谷選手が若手の挑戦退ける

2人チーム戦は、愛媛 A1(岩城・泉宗)と、群馬 A1(渡辺・近藤)の優勝争いだったが、愛媛 A1が2646で、群馬 A1を5ピン差退けた。



▲2位の斎藤選手「入賞も初めてなので、それが2位という結果で満足しています」



▲上よりも下からの追い上げを気にしながら投げた久富木選手は最終Gに順位を一上げて3位



▲男子団体総合で初優勝の長崎県。3人チーム戦の優勝に貢献など選手兼任の山下知且監督が受賞



▲千葉と同点だったが、規定により初優勝の群馬県は近藤亮二監督が文部科学大臣杯を受けた